



姉妹校交流

台灣慧燈中學



TV・WEB会議ツール「ZOOM」によるオンライン交流



URAGAKU ZOOM STYLE



11月19日木曜日、姉妹校である台湾宜蘭懸の慧燈フェイトン中學とオンライン交流が行われた。参加は本校生徒9名(国際類型3名・特進類型6名)、慧燈中學10名の生徒と関係教職員。両校校長挨拶後、英語による代表生徒挨拶、プレゼンテーションに続き、30分間の交流も行われた。まさに、コロナ禍が加速しつつも、情報とコミュニケーションを融合したInformation and Communication Technology(情報通信技術)の実践である。



1



2

Monday	
08:00 - 08:15	Math ①
08:20 - 08:45	Math ②
08:50 - 09:15	Japanese ①
09:20 - 09:45	History of Japan ①
09:50 - 10:15	Music ①
10:20 - 10:45	Classical ①
10:50 - 11:15	Physical Education ①

3



4



5



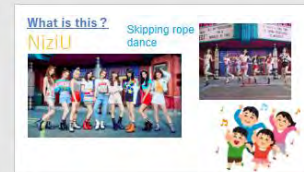
6



7



8



9



10



- 本校生徒のプレゼンテーションは、
1. 学校紹介
 2. 日本の高校生について

特進類型の生徒が資料作成を担当、
発表を行った。

交流感想

私はこの台湾姉妹校オンライン交流によって多くのことを学ぶことが出来ました。まず一つ目は英語の話し方の違いです。日本の高校生は比較的動きが控えめで、たどたどしく英語を話すことが多いように思います。しかし、台湾の高校生は反対に動きを入れ堂々と話しているように思えました。「日本人の多くはあまり自信を持っていない」ということに関係があるのか、台湾では日本より英語を使う機会が多いのか、他国と陸続きになっているというの也有着て他国間交流が多いのか、もしくはそれ以外の理由があるのかと疑問に感じました。もし台湾の高校生のように英語を堂々と話すことが出来るようになれば、日本の高校生ももっと海外進出や多言語での交流などを活発に行えるようになるのではないかと思います。二つ目は日本の文化が本当に他国に伝わっていたということです。確かにテレビや教科書で他国での日本文化について紹介されています。しかし、私には実感がありませんでした。今回の交流で日本文化が他国に伝わっているということに実感を持ち、初めて日本文化のすごさというものを理解することが出来ました。短い時間ではありましたが多くのことを学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。台湾姉妹校オンライン交流に参加して本当に良かったです。
(特進類型 2年女子)

台湾姉妹校オンライン交流に参加して、英語をこれからたくさん使いたいと思うようになりました。台湾の生徒が話す英語はすごく発音も良くて、聞きやすかったです。お互いに質問と回答をしながら、英語は書くだけでなく、本当に話すこと聞くことが大切だと改めて感じました。また、お互いの文化や習慣、教育の違いを学びました。私たち日本人からして不思議に感じる台湾の慣習、また台湾の生徒にとって不思議に感じる日本人の慣習など、交流していく中で分かるようになりました。また、慧燈中學のイベントや活動など、私も参加してみたいなと思いました。部活動も色々和日本と異なるところがあり、実際にどのように活動しているのか興味を持ちました。今回の交流会で自分が一番変わったところは、英語の学びへの意欲が高まり、本当に話せると「こんなに嬉しく思えるんだな」と思ったところです。これからは英語劇もあります、たくさん英語を話したいと思います。
(特進類型 2年女子)



挨拶 石原校長



講評 中熊副校長